

平成24年行政事業レビューシート (防衛省)

事業名	イージス艦へのBMD機能の付加		担当部局庁	経理装備局、防衛政策局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	事業開始：平成16年度 事業終了(予定)：平成30年度		担当課室	艦船武器課、防衛計画課		艦船武器課長 中野裕文 防衛計画課長 青柳 肇		
会計区分	一般会計		施策名	装備品等の取得改革等(装備品等の整備)				
根拠法令 (具体的な条項も記載)			関係する計画、通知等	平成23年度以降に係る防衛計画の大綱 (平成22年12月17日 安全保障会議決定・閣議決定)				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	弾道ミサイル等の攻撃に対し、我が国国民の生命・財産を守るため、現有の「こんごう」型イージス・システム搭載護衛艦4隻について弾道ミサイル対処が可能な機能(BMD機能)を付加する。 さらに、「あたご」型イージス・システム搭載護衛艦2隻にBMD機能を付加する。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	「こんごう」型イージス・システム搭載護衛艦への弾道ミサイル対処機能(BMD機能)の付加では、現有のレーダー、ソフトウェア、垂直発射装置等を弾道ミサイル対応型に改修するとともに、弾道ミサイルを迎撃するSM-3ミサイルを新規に取得して搭載することによって行う。平成22年度に、4隻目となる「きりしま」の最終的な発射試験等を行い「こんごう」型は終了した。 「あたご」型イージス・システム搭載護衛艦への弾道ミサイル対処機能(BMD機能)の付加では、現有のレーダー、ソフトウェア、垂直発射装置等を弾道ミサイル対応型に改修する。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求	
		補正予算	0	0	-	-		
		繰越し等	0	0	-	-		
		計	27,035	6,648	-	1,022	5,204	
	執行額	27,118	6,808	-	-	-		
	執行率(%)	100.3	102.4	-	-	-		
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	21年度	22年度	23年度	目標値(30年度)
	「こんごう」型護衛艦4隻にBMD機能を付加及び 「あたご」型護衛艦2隻にBMD機能を付加		成果実績	隻	1	1	-	2
			達成度	%	75	100	-	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	「こんごう」型対象艦艇4隻(22年度完了) 「あたご」型対象艦艇2隻(24年度新規)		活動実績 (当初見込み)	隻	1	1	-	-
					()	(-)	(-)	
単位当たりコスト	「こんごう」型: 33,861(百万円/艦)		算出根拠	「こんごう」型 16年度からの総事業経費:135,442(百万円) 対象艦艇:4隻				
	「あたご」型: 24年度からの新規事業のため記載事項なし			「あたご」型 24年度からの新規事業のため記載事項なし				
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由				
	武器購入費	1,021,776	5,203,826					
	計	1,021,776	5,203,826					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
		不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途		支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
		単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績		他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
		適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
		活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
		類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
		※類似事業名とその所管部局・府省名	
○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		
点検結果		<p>1. 必要性 平成24年4月に北朝鮮による「人工衛星発射」と称する弾道ミサイルの発射に代表されるように、我が国に対する弾道ミサイルによる脅威は、BMD機能を導入した当初の情勢よりも一層高いものとなっている。22年度に「こんごう」型のBMD機能付加事業は終了したが、このような情勢を受け、防衛大綱に示されるBMD機能を有するイージス・システム搭載護衛艦6隻体制の確立が必要であり、我が国国民の生命・財産を守るためにも、「あたご」型へのBMD機能付加を行う必要があり、24年度から防衛省が実施することが適切である。</p> <p>2. 効率性 23年度に事業の実績はないものの、24年度から実施する「あたご」型へのBMD機能付加は、「こんごう」型の場合と大きく異なり、システムの換装等と大規模なものになるが、経費の大部分を占めるFMS調達を「こんごう」型での実績から精査を行い予算要求を行っている。</p> <p>3. 有効性 弾道ミサイルが発射される事態においては、常時所要のイージス艦を配置することが可能となり、我が国の弾道ミサイル防衛体制を維持・向上することが可能と見込まれる。</p> <p>4. 総合評価 イージス艦へのBMD機能の付加は、一層高くなる弾道ミサイルによる脅威に対し、有効な手段であり、我が国の弾道ミサイル防衛体制の維持・向上に必要である。</p>	
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善		FMS契約であり、経費の削減が困難であると考えられるが、米海軍との調整段階で必要・不必要な事項を精査する等、効率的な予算要求・執行に努める必要がある。	
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
執行等改善		「こんごう」型での実績の分析等を行い効率的、効果的な予算要求に努める。	
補記(過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	0051	平成23年行政事業レビュー	0042

※平成23年度実績を記入

資金の流れ
(資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位: 百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロック
 ごとに最大の
 金額が支出され
 ている者につい
 て記載する。費
 目と使途の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

A.			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					